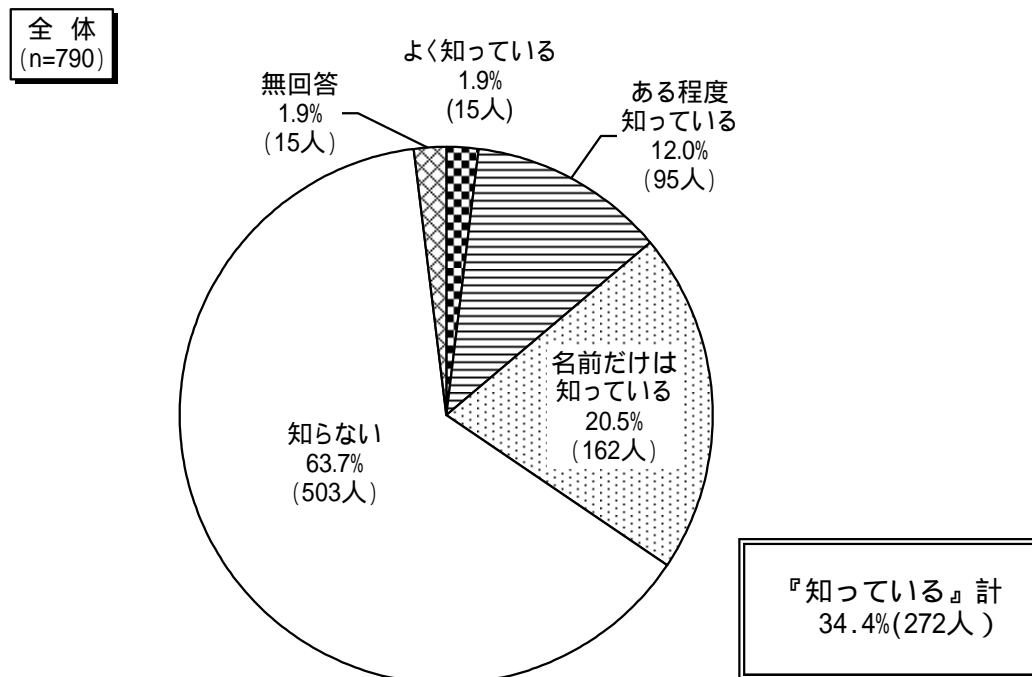


Ⅱ 調査結果の解説

1 福島県農林水産物の消費拡大について

(1) 「絆づくり運動」の認知状況

問1 福島県では、農林水産業と食、緑、環境、暮らしをつなぎ、みんなで支え合う「絆づくり運動」を進めています。あなたは、この運動を知っていますか？
あてはまるもの1つに をつけてください。



「絆づくり運動」を「よく知っている」人の割合は1.9%、これに「ある程度知っている」(12.0%)、「名前だけは知っている」(20.5%)を合わせた『知っている』計の割合は34.4%となっている。

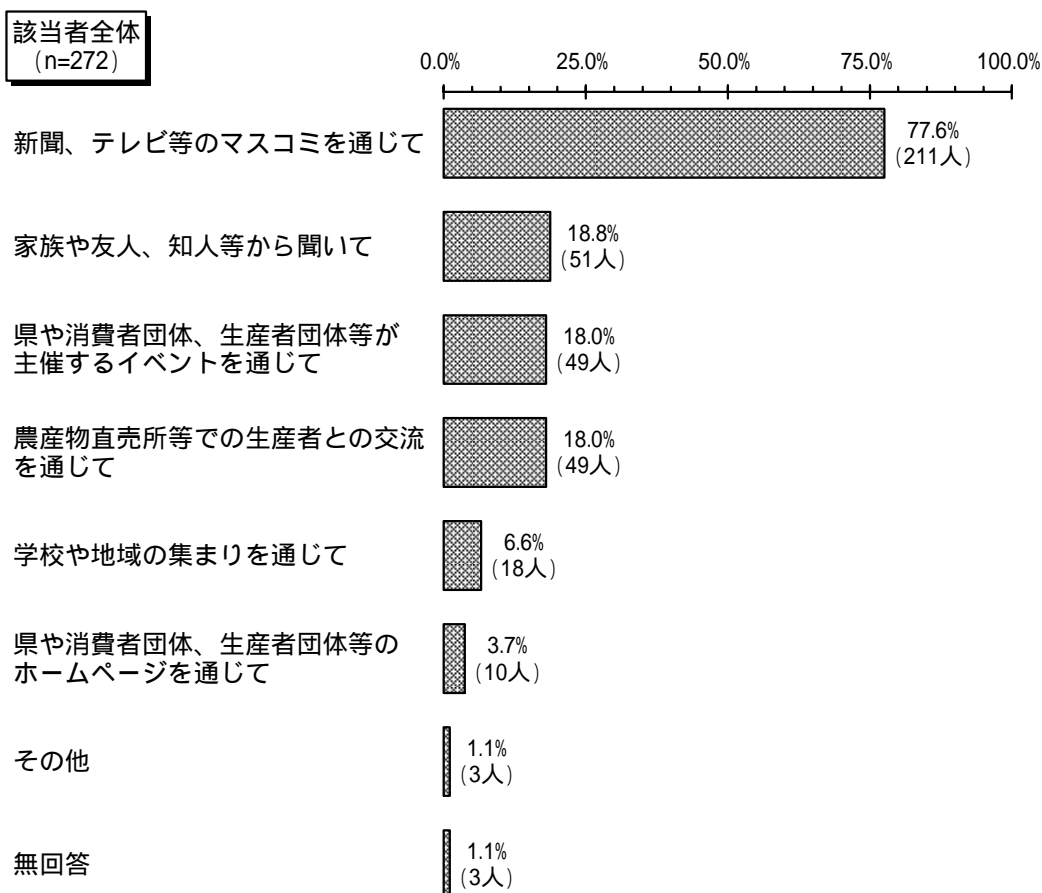
なお、「知らない」人の割合は63.7%となっている。

(2) 「絆づくり運動」の認知方法

(問1で「1 よく知っている」、「2 ある程度知っている」又は「3 名前だけは知っている」とお答えの方にお尋ねします。)

問1-1 「絆づくり運動」をどのようにして知りましたか？

あてはまるものに、いくつでもをつけてください。

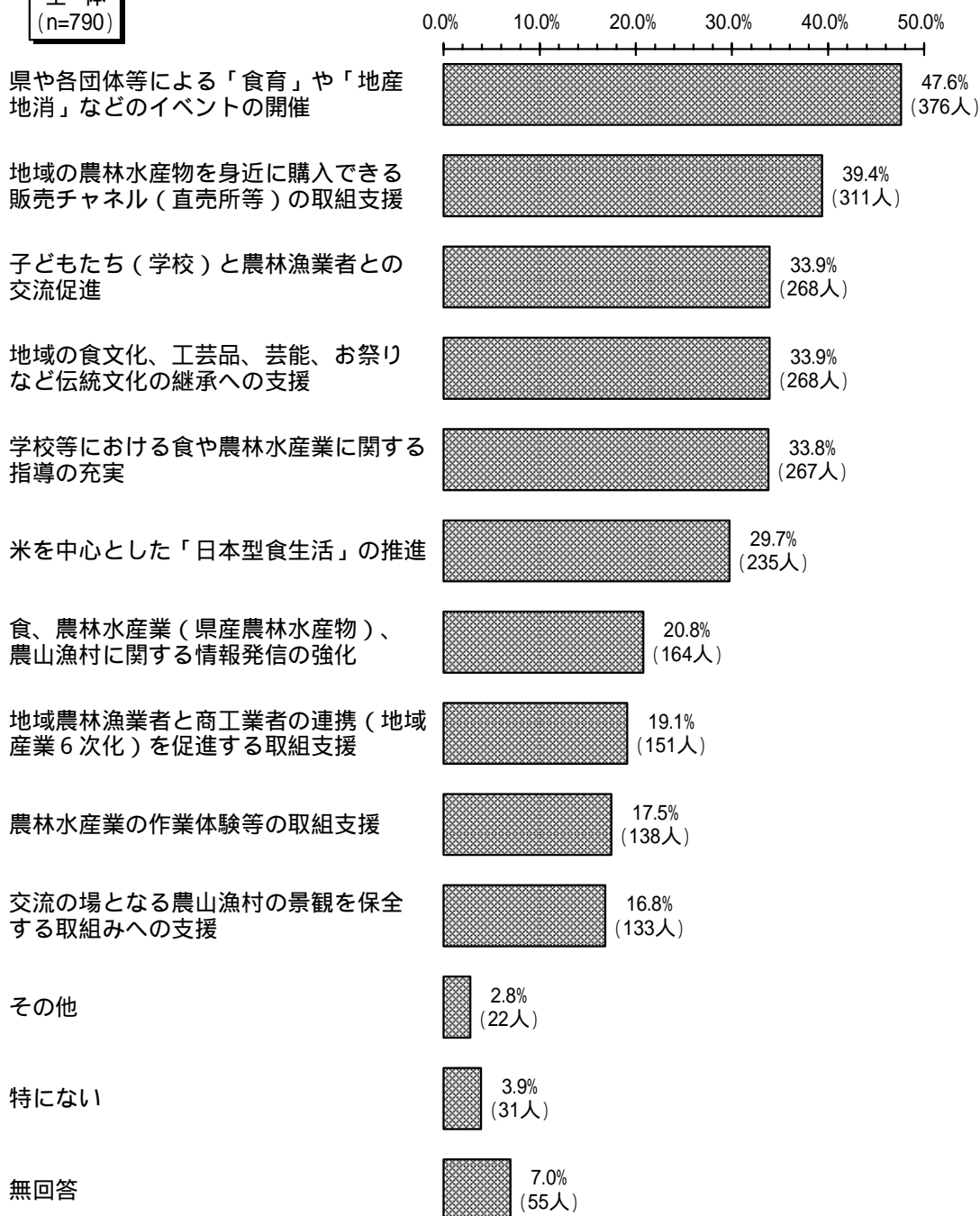


「絆づくり運動」を知った方法は、「新聞、テレビ等のマスコミを通じて」(77.6%)が最も多く、8割弱となっている。「家族や友人、知人等から聞いて」(18.8%)、「県や消費者団体、生産者団体等が主催するイベントを通じて」(18.0%)、「農産物直売所等での生産者との交流を通じて」(18.0%)が2割弱で続いている。

(3) 「絆づくり運動」を拡大、浸透させるために有効な対策

問2 「絆づくり運動」を全県的に拡大し、浸透させるには、次のような対策が考えられます。あなたは、どのような対策が有効だと思いますか？
 あてはまるものに、いくつでもをつけてください。

全体
 (n=790)

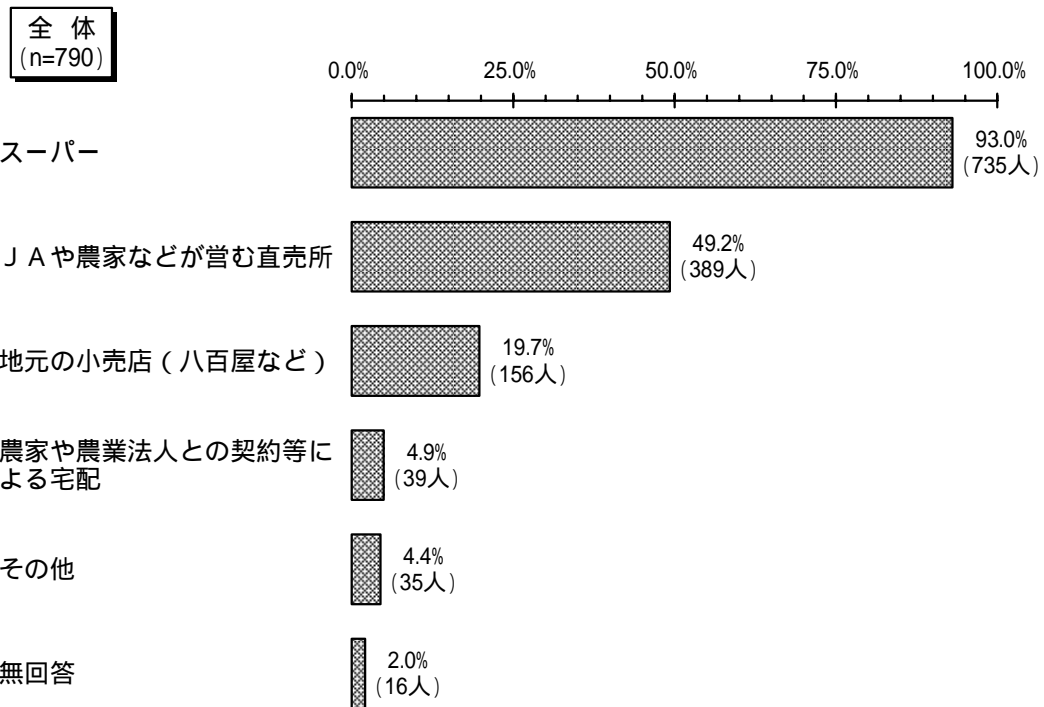


「絆づくり運動」を拡大、浸透させるために有効な対策は、「県や各団体等による『食育』や『地産地消』などのイベントの開催」(47.6%)をあげる人が最も多く、5割弱となっている。

次に、「地域の農林水産物を身近に購入できる販売チャネル(直売所等)の取組支援」(39.4%)、「子どもたち(学校)と農林漁業者との交流促進」(33.9%)、「地域の食文化、工芸品、芸能、お祭りなど伝統文化の継承への支援」(33.9%)、「学校等における食や農林水産業に関する指導の充実」(33.8%)、「米を中心とした『日本型食生活』の推進」(29.7%)、「食、農林水産業(県産農林水産物)、農山漁村に関する情報発信の強化」(20.8%)などとなっている

(4) 農林水産物の主な購入先

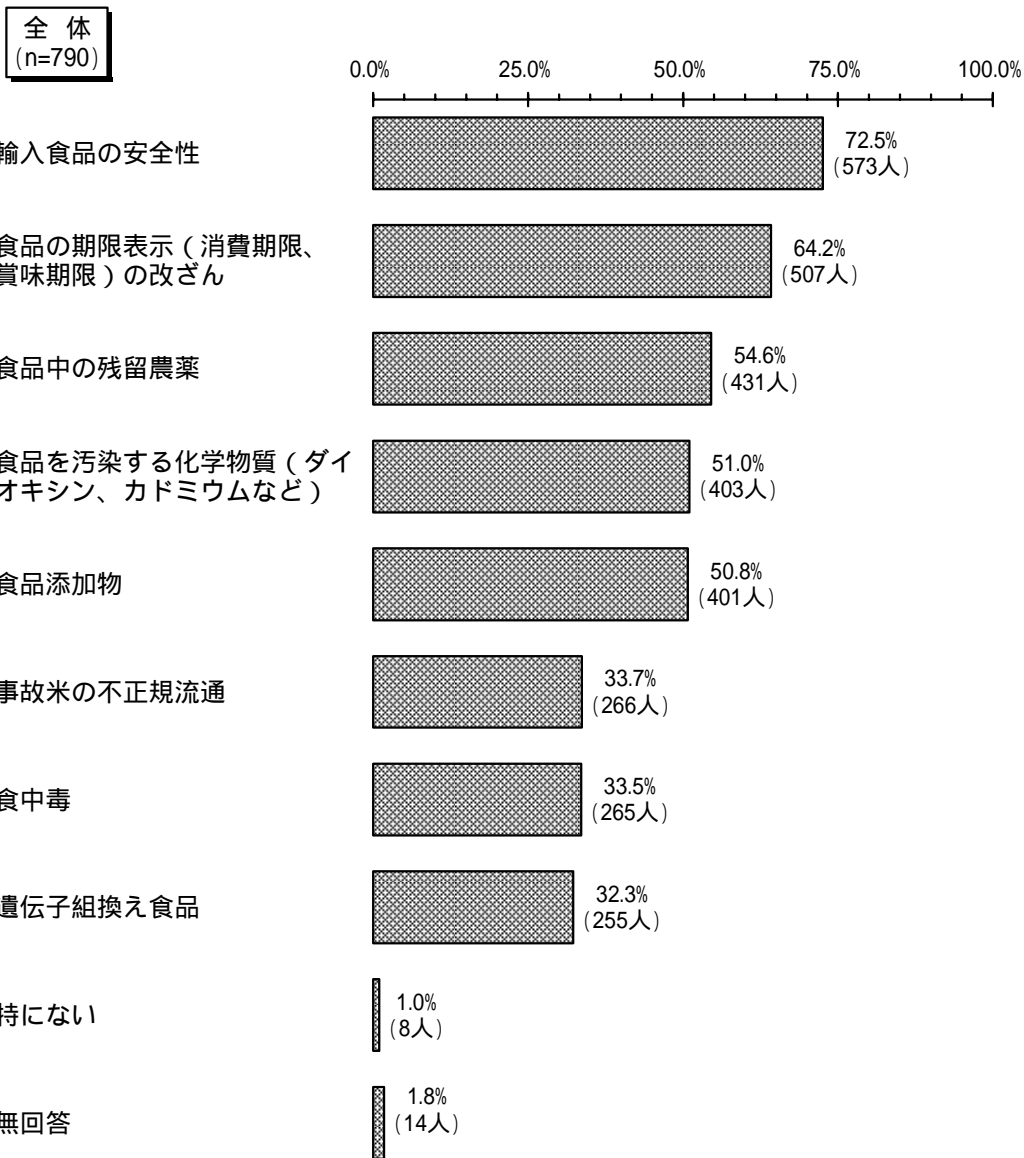
問3 あなたは、農林水産物を購入する際に、主にどこで購入していますか？
あてはまるものに、いくつでもをつけてください。



農林水産物の主な購入先は「スーパー」（93.0%）が最も多く、9割を超えている。次いで、割合はかなり低下するが、「J A や農家などが営む直売所」（49.2%）が5割弱で続き、以下「地元の小売店（八百屋など）」（19.7%）、「農家や農業法人との契約等による宅配」（4.9%）となっている。

(5) 気になる食品の問題

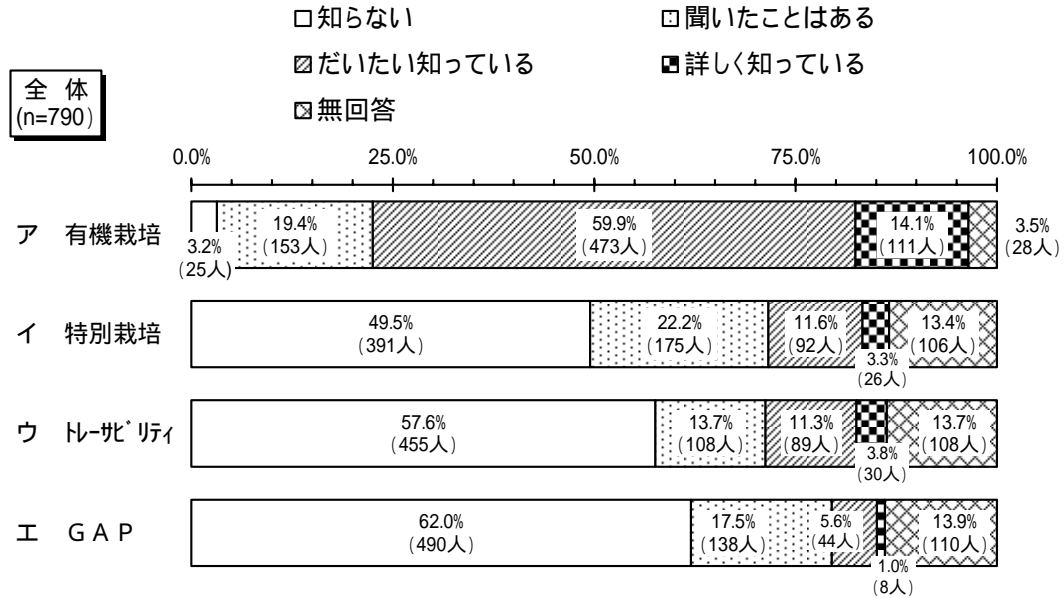
問4 あなたが、食品を巡る問題で気になるものは何ですか？
あてはまるものに、いくつでもをつけてください。



食品を巡る問題で気になるものは、「輸入食品の安全性」(72.5%)をあげる人が最も多く、7割強となっている。次いで「食品の期限表示(消費期限、賞味期限)の改ざん」(64.2%)が6割強で続き、以下、「食品中の残留農薬」(54.6%)、「食品を汚染する化学物質(ダイオキシン、カドミウムなど)」(51.0%)、「食品添加物」(50.8%)が5割台、「事故米の不正規流出」(33.7%)、「食中毒」(33.5%)、「遺伝子組換え食品」(32.3%)が3割台となっている。

(6) 安全・安心な農林水産物提供のための取組みの認知状況

問5 県では安全・安心な農林水産物を消費者へ提供するため、様々な取組みへの支援、食に関係する事業者と消費者との相互理解の促進を図っています。以下は取組みの一部ですが、あなたは、次の用語について知っていますか？それぞれ1～4の中であてはまるもの1つにをつけてください。



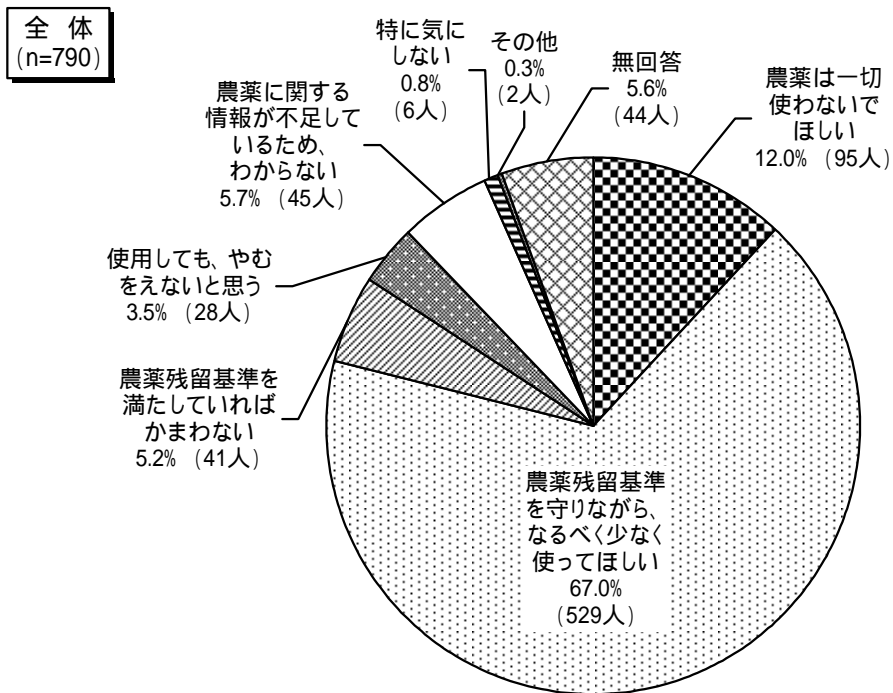
「詳しく知っている」用語は、有機栽培（14.1%）をあげる人が最も多くなっている。

また、「詳しく知っている」と「だいたい知っている」を合わせた『知っている』計は、有機栽培（73.9%）が最も多く7割を超え、以下、トレーサビリティ（15.1%）、特別栽培（14.9%）、GAP（6.6%）となっている。

一方、「知らない」は、GAP（62.0%）とトレーサビリティ（57.6%）が6割前後、特別栽培（49.5%）が5割弱となっている。有機栽培を「知らない」人は3.2%とわずかである。

(7) 農薬使用についての考え

問6 農産物への農薬使用についてどう思いますか？
あてはまるもの1つに をつけてください。

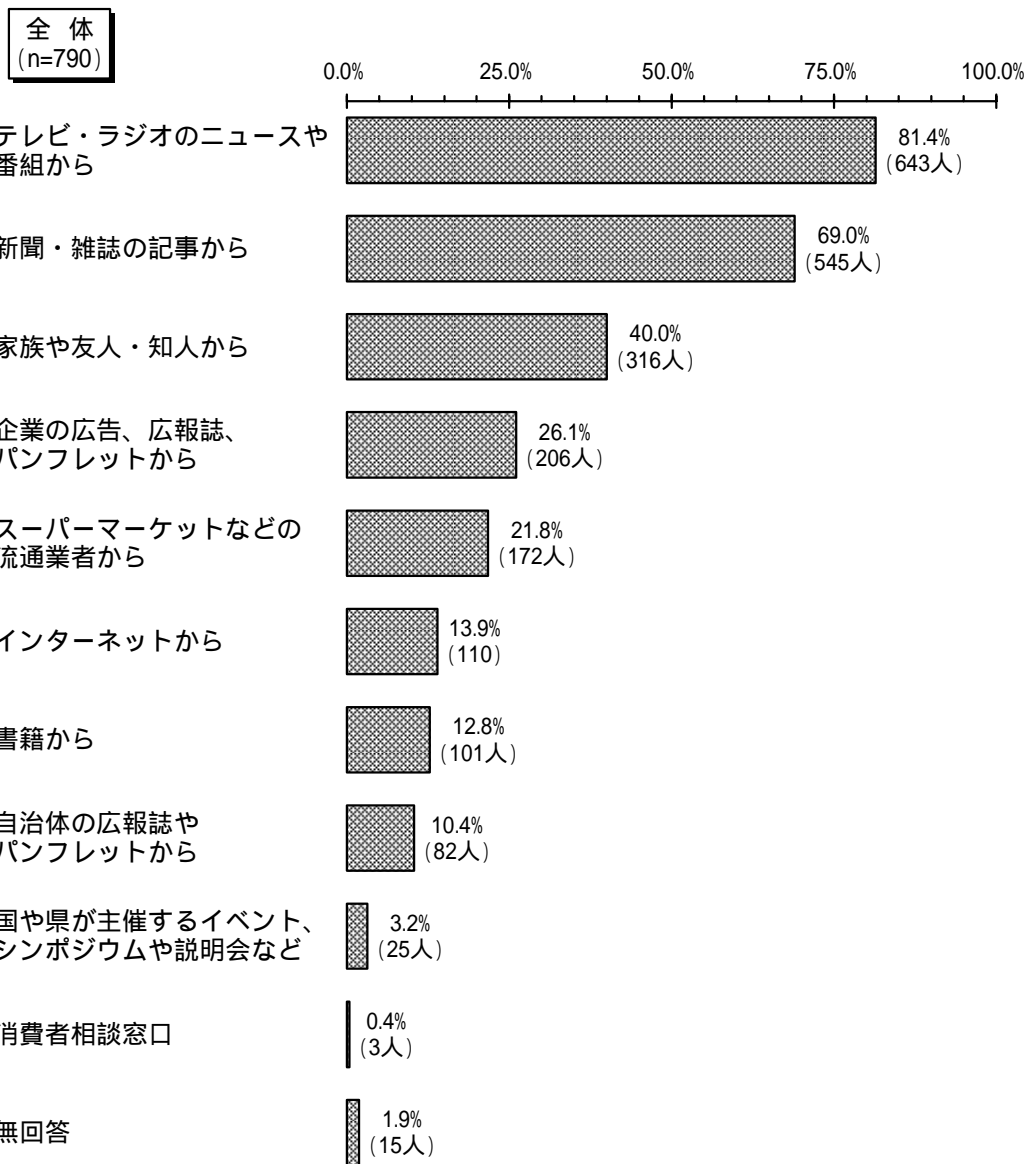


農産物への農薬使用は、「農薬残留基準を守りながら、なるべく少なく使ってほしい」(67.0%)が最も多い。次いで割合はかなり低下するが、「農薬は一切使わないでほしい」(12.0%)が続き、以下、「農薬に関する情報が不足しているため、わからない」(5.7%)、「農薬残留基準を満たしていればかまわない」(5.2%)、「使用しても、やむをえないと思う」(3.5%)となっている。

「特に気にしない」は、0.8%とわずかである。

(8) 食品に関する情報の入手方法

問7 食品に関する情報はどのような方法で入手していますか？
あてはまるものに、いくつでもをつけてください。



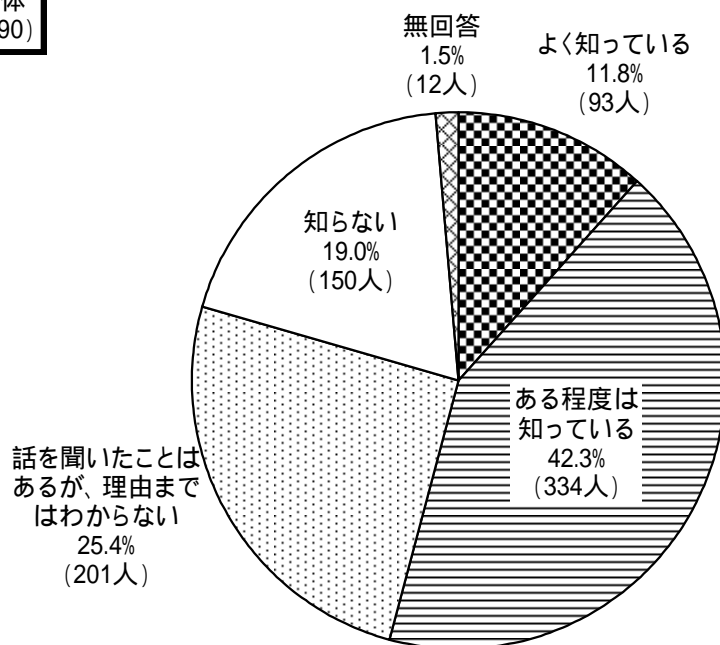
食品に関する情報の入手先は、「テレビ・ラジオのニュースや番組から」(81.4%)が最も多く、8割強となっている。次いで「新聞・雑誌の記事から」(69.0%)が7割弱で続き、以下、「家族や友人・知人から」(40.0%)、「企業の広告、広報誌、パンフレットから」(26.1%)、「スーパーマーケットなどの流通業者から」(21.8%)、「インターネットから」(13.9%)、「書籍から」(12.8%)、「自治体の広報誌やパンフレットから」(10.4%)などとなっている。

(9) 県産材利用と環境保全のつながりの認知状況

問8 あなたは、県内の森林から生産される木材（県産材）を利用することが、森林整備や、地球温暖化防止などの環境保全につながっていくことを知っていますか？

あてはまるもの1つに をつけてください。

全体
(n=790)

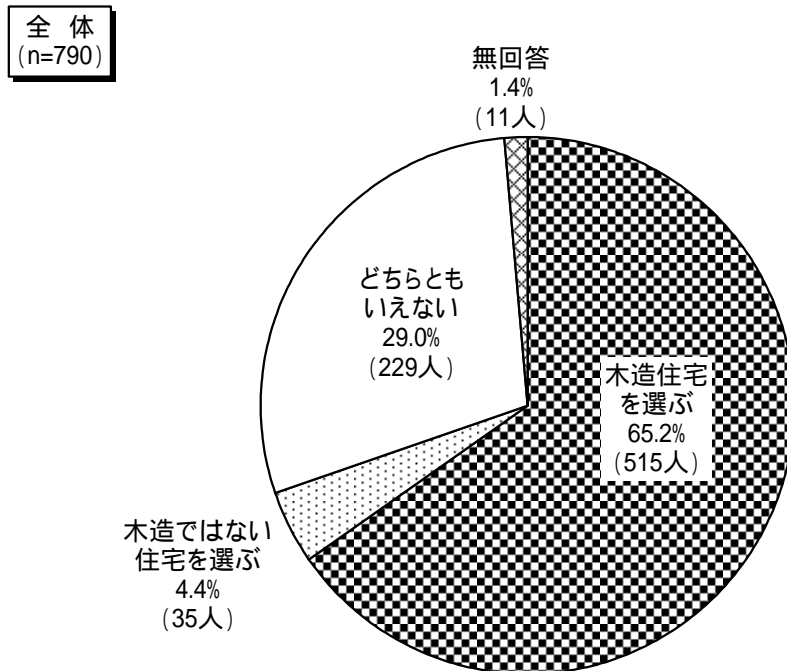


県産材を利用することが環境保全につながっていくことを「よく知っている」は11.8%、「ある程度知っている」は42.3%、「話を聞いたことはあるが、理由まではわからない」は25.4%となっている。

一方、「知らない」と回答した人は19.0%となっている。

(10) 木造住宅選択の有無

問9 あなたがこれから住宅を建設する場合、木造住宅を選びますか？
あてはまるもの1つに をつけてください。

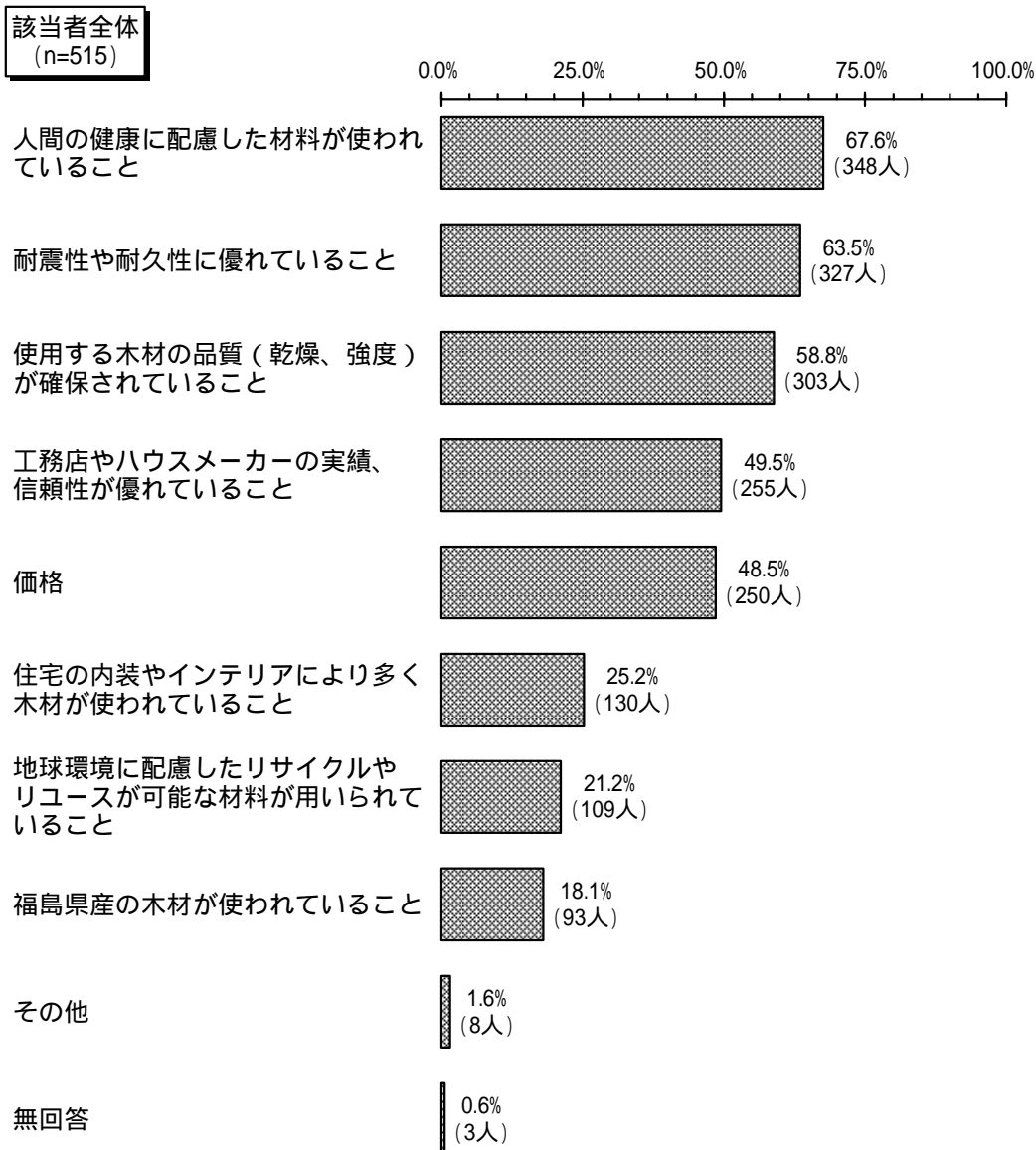


これから住宅を建設する場合、「木造住宅を選ぶ」（65.2%）と回答した人が6割を超えている。「木造ではない住宅を選ぶ」は4.4%、「どちらともいえない」は29.0%となっている。

(11) 木造住宅選択の際に重視すること

(問9で「1 木造住宅を選ぶ」とお答えの方にお尋ねします。)

問9-1 木造住宅を選ぶときに、あなたが重視することは何ですか？
あてはまるものにいくつでもをつけてください。



木造住宅を選ぶときに重視することは、「人間の健康に配慮した材料が使われていること」(67.6%)が最も多く、次いで「耐震性や耐久性に優れていること」(63.5%)が続いている。以下、「使用する木材の品質(乾燥、強度)が確保されていること」(58.8%)、「工務店やハウスメーカーの実績、信頼性が優れていること」(49.5%)、「価格」(48.5%)、「住宅の内装やインテリアにより多く木材が使われていること」(25.2%)、「地球環境に配慮したリサイクルやリユースが可能な材料が用いられていること」(21.2%)、「福島県産の木材が使われていること」(18.1%)の順となっている。